

ブロイラー産業の発展と課題に関する研究

【目次】

はじめに	第3章 インテグレーターとの主体間関係
第1章 ブロイラー産業の歴史	第1節 生産者との関係
第1節 ブロイラー産業の誕生	第2節 荷受会社、小売との関係
第2節 ブロイラーインテグレーションの展開	第4章 ブロイラーインテグレーターの経営事例
第2章 鶏肉の生産・消費動向	第1節 (株)十文字チキンカンパニー(岩手県)
第1節 様々な要因による需給変化	第2節 (株)丸本(徳島県)
第2節 規模拡大と生産地の変遷	第5章 ブロイラー業の直面する課題と取り組み
第3節 地鶏と銘柄鶏	第1節 ブロイラー業の課題
	第2節 消費者ニーズの多様化に対する取り組み
	おわりに

【研究の目的・課題】

ブロイラー産業の発展を考える上で重要なことは、インテグレーションの誕生・発展である。ブロイラー産業は工業的農業の側面を持っており、その側面を最大限に生かすためには生産コストの削減を行い、生産から流通、さらには販売までを統合、系列化することで合理化を図ってきたことがインテグレーションの発展へと繋がったとされる。

また、近年では鳥インフルエンザの発生やそれを受けて銘柄鶏の普及や食の安全に対する取り組み、他に原油価格の高騰、飼料穀物の高騰、生産者の減少や海外からの鶏肉輸入など様々な問題が起きている。今日、ブロイラー産業は大きな転換期を迎えている。

本論文では、養鶏業でも特に食用肉鶏、ブロイラー産業においてブロイラーインテグレーションの発展と鶏肉需給の変化の要因について検討を加える。インテグレーションにおいてはローカルインテグレーターの経営事例の特徴を捉えることで、これまでのブロイラー産業の発展過程やこれからの課題や展望について検討することを目的とする。

【方法】

ブロイラー産業、農業インテグレーションに関する文献や論文を収集した。また、統計資料・インターネット等からデータを収集し分析・考察を行なった。

【結論】

今日の日本の鶏肉消費量は200万トンに迫る勢いとなり、食肉消費量の約30%を占めるまでとなった。ブロイラー産業がここまで成長し、鶏肉が日本人の食生活に浸透した主な要因は以下の3つの点が影響したと考えられる。

第1に、インテグレーションシステムの誕生である。商社系企業主導のインテグレーションシステムから、ローカルインテグレーターが発展することにより、今日でもブロイラー生産者は家族単位での経営を維持している。

第2に、銘柄鶏の開発、普及である。これにより各社は、価格競争のみの経営戦略から一般鶏とは異なった銘柄鶏を販売することで他社との差別化を図る戦略へとシフトした。結果、鳥インフルエンザの影響も重なり、消費者は安全な鶏肉を求める動きとなり現在では国内鶏肉生産量の50%弱が銘柄鶏の生産となった。

第3に、外国からの安価な鶏肉調製品の輸入である。鶏肉消費のうち、外・中食産業、加工品製造業者で約60%を輸入鶏肉に依存している。そして、最近再び輸入鶏肉量が増加している。これは鳥インフルエンザの収束や飼料価格の高騰を受けて、国内産鶏肉の価格上昇を受けて安価な外国産鶏肉を消費する動きが出ているためである。

これからの課題としては、これから再び外国からの鶏肉輸入が増加すると予測される一方で、国内市場は金融危機の影響を受けて一転厳しい経営を強いられるだろう。その経営戦略が再び価格競争へと発展し、以前と同じような事態としないためにもブロイラー産業全体での取り組みが要求されてくる。

【参考文献】

宮崎宏『農業インテグレーション』家の光協会、1972年。

張秋柳、斉藤修「鶏肉産業におけるインテグレーションの進展開と経営戦略」『日本農業経済学会論文集』、2003年。

吉田忠「最近におけるブロイラーインテグレーションの動向」『日本家禽学会誌』21巻6号、1984年。